

# 「第6回石川地方会 開催報告」



テーマ：「多職種からみた医師事務作業補助者～求められる資質とは～」

平成29年5月27日、石川県地場産業振興センター新館コンベンションホールにて、第6回石川地方会を開催致しました。県内外より153名（会員87名 非会員66名）の方にご参加いただきました。

## 開会の挨拶

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部世話人 山本 信孝 先生



石川県支部世話人 山本 信孝先生（金沢脳神経外科病院 副院長）より開会の挨拶がありました。医師事務作業補助者加算が誕生して10年目を迎えようとしています。医師事務作業補助者が医師の事務作業を行うことで、医療の質向上にも貢献できております。まだ病院の中では新しい職種ではありますが、皆さんで勉強し切磋琢磨し、また、本日、吸収した事を明日の業務につなげてほしいと述べられました。

## 研究会活動報告

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部 支部長 松井 圭子

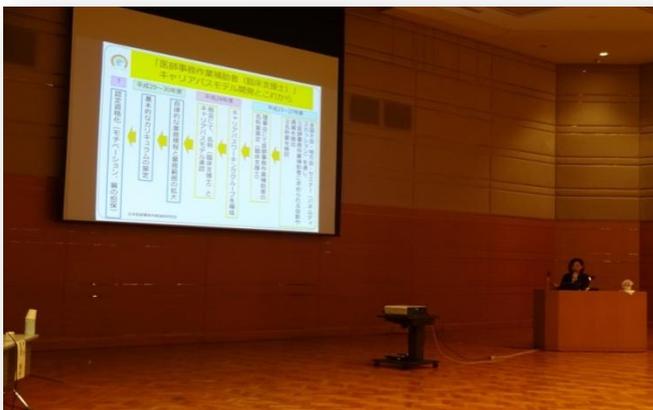


石川県支部設立の経緯やこれまでの活動について報告。そのほか今年度の地区会や全国大会の日程について報告を行いました。

## 研究会活動報告

NPO法人日本医師事務作業補助研究会

理事長 矢口 智子



矢口理事長からは、研究会の目的と活動について報告がありました。医師事務作業補助者の課題としてキャリアパス・雇用・教育体制をあげられ、それらに対する研究会での今後の取り組みが述べられました。また、医師事務作業補助者の名称「臨床支援士」を統一するまでの経緯についても述べられ、職能団体として認められるには活動に賛同していただける会員数の確保が重要と案内がありました。最後に支部の活動が全国に広がるように、石川県支部一丸となり頑張りたいとエールが送られました。

医師事務作業補助者は「勤務医の負担軽減に貢献できる職種」に成長、チーム医療の一員として医師事務作業補助者のあるべき姿について多職種の方々と討議したいと考え、今回、「薬剤師・診療情報管理士・看護師・事務長」それぞれの立場からご講演いただきました。



～パネリスト～

- ・ 金沢脳神経外科病院  
薬剤部 部長 熊橋 裕人 氏
- ・ 浅ノ川総合病院  
経営企画・広報室 副部長 鈴木 ちなみ氏
- ・ やわたメディカルセンター  
看護部 主任 蓮井 静香 氏
- ・ 金沢西病院  
事務長 森 昌秋 氏

4人のパネリストの発表から医師事務作業補助者が多職種と連携を行う上で以下のことが挙げられました。

- ① 業務の効率化・医療の効率化に貢献
- ② 多職種の方々も本来の業務に専念できる
- ③ 診療録記載漏れや保険請求漏れ防止にも貢献できる
- ④ 医師事務作業補助者を通して医師への連携がスムーズに行える

業務が円滑に、また患者さんに最適な医療が提供できるよう医師事務作業補助者がそれぞれの専門職の方々とチームになり貢献できていることがわかり大変励みになりました。経歴が様々である医師事務作業補助者が、今後もさまざまな分野で貢献できるよう日々研鑽を積み、専門性を高めていけるよう努力していきたいと思えます。

基調講演 「イシジムサンについて考えること」 金沢赤十字病院院長 岩田 章先生

まず基調講演に入る前に今回の基調講演を予定していた西村元一先生（金沢赤十字病院副院長）が病氣療養中であるため、参加者の皆さんにビデオメッセージが届けられました。

- ・ 患者さんの立場にたって診療補助に望んでほしい
- ・ 医師事務作業補助者の背景は様々ではあるが、求められるものとして『人と優しく接する』ことが一番
- ・ チーム医療における『役割分担』が『役割分割』にならないように隙間を埋める役割を果たしてほしいと、他たくさんのメッセージをいただきました。

西村元一先生は5月31日ご逝去されました。

私たち医師事務作業補助者に力強いメッセージをいただきました。

ありがとうございました。御冥福をお祈り致します。



講師：金沢赤十字病院院長 岩田 章先生

医師不足による医師の過重労働、疲弊、それに起因する医療事故の増加といった医療崩壊の歴史が社会問題となったことにより、医師事務作業補助者が誕生した経緯や、今後の可能性までわかりやすくご講演くださいました。

医師事務作業補助者は新しい職種であります、“来た道は引き帰れません”今では病院にはなくてはならない存在、ますます業務の守備範囲を増やし頑張ってもらいたい、そして社会の中でも認知され一目おかれるような存在になれるよう期待しますとお言葉をいただきました。

## 閉会の挨拶

NPO法人日本医師事務作業補助研究会石川県支部顧問 勝木 保夫 先生

本日の講演から、テーマである多職種やチーム医療という言葉が沢山出てきました。以前の医療は医師が中心にいた時代、今は患者さんを輪の中心にして、どのような医療を提供するかをチームで話し合う時代に変化してきています。医療職は専門性も高く、また多忙となってきた中で医療安全や満足度が求められています。患者さんと医療者をつなぐチームの役割は、医師事務作業補助者である臨床支援士の皆さんであり、これからは医師や病院の為だけではなく、患者の為に存在する職種として成長していただきたい。それを認めてもらうためには足場をしっかりと固めていってもらいたい。本日学んだことは持ち帰り一年頑張ってください、来年またここで会いしさらに知識を高めていきましょうと、激励のお言葉をいただき閉会となりました。

## 地方会をとおして

これまでボトムアップ向上にむけて書類作成・教育・医療安全などをテーマに石川地方会を行ってきました。今回は職種の専門性を高めることを目的に『チーム医療への貢献』『患者さんとの架け橋としての役割』をテーマに皆さんと考える事ができました。

多職種の方々から医師事務作業補助者との関わりについてお話をいただき、病院によって関わり方は様々ではありますが、皆さん共通して“医師事務作業補助者＝貴重な存在”であると、ご意見をいただき大変うれしく思い、参加者皆さんのモチベーションもあがったのではないのでしょうか。

県内はもとより遠方からも多数ご参加いただき、石川県支部は今後も継続教育活動を行い専門職として職種確立に向けて活動を行っていきたく思います。また、さらにコミュニケーション力を高め、多職種に必要とされる存在に、成長していきたく思っております。

開催にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

報告者：やわたメディカルセンター 松井 圭子